

## サポーター寄付のお願い

### 安定と飛躍のために サポーター寄付のお願い

鳥の劇場は民間の劇場です。民間のライブハウスやイベントスペースは日本にもたくさんあります。公立のホール、会場もたくさんあります。でも、民間の劇場はありません。その民間の中でも鳥の劇場のユニークなところは、俳優やスタッフによって構成される創作集団がいつもいる。創作集団によって運営されている劇場であるということです。

民間のたいへんなところは、何と言っても資金調達です。鳥の劇場は、事業費だけでなく、人件費、設備維持費、機材費など管理的経費も全て毎年ゼロからの調達です。調達される資金は、大きさは自己資金と助成金に分けられます。

チケット料金や上演料収入、続いてワークショップや事業などの委託料、それにみなさんからいただく寄付。これらが自己資金で、残りの部分が補助金・助成金です。これにも民間の財団からのものと、行政からのものがあります。

行政からの補助金・助成金はシステムがちょっと複雑です。使ったお金の半分を助成しましょうというのが、まずは基本の考え方です。例えば200万円の領収書を見ると、100万円がもらえてます。ボイントは、「使ったお金」「半分」「後」などいつつです。(もちろん「半分」が無制限にサポートされるのではありません。上限はあります。助成の審査は、助成の可否とサポート上限額の決定という二層があります。)

そもそも芸術活動への公的なサポートは、その活動が市場経済の論理だけでは実施や継続が難しいが、社会の健全な発展のために不可欠なものであるという考え方によって正当化されています。(憲法89条を根拠にした異議もあります。)

鳥の劇場の毎年の事業計画も、その基準によって審査され助成を得ます。助成が得られない可能性は常にあり、うちの場合、國のものがダメだと活動が即不能状態になるので、計画の提出にはかなりの神経とエネルギーを使います。

ともかく今年26年でも文化庁の助成は決まりました。ホッとしています。今年は約2900万です。でもハードルがあります。まず使わなければならぬからです。使うためには、自己資金と借金です。例えば2000万を自己資金で用意し、2000万借りて、合計4000万を使い、その後で助成2000万をもうういうことになります。

資金的な面で運営をスムーズ、確実にするカギは自己資金です。自己資金には二重の意味があります。自由に使えるお金で

あり、活動を支える基本であるとともに、助成金を得るための原資でもあるわけです。100万円の自己資金があれば、借金が必要ですが助成金と合わせて200万の事業が可能になります。

実は鳥の劇場の場合、自己資金が不十分で助成金の枠を使い切っています。自己資金さえあればもう事業に費用をかけることができます。しかし鳥の劇場は助成枠上限の7割弱しか使えないので、チケット売り上げを増やそう、招致されての上演を増やそう、委託事業を受けようなど、自助努力も尽していますが、結果的に自己資金が少なく資金的な可能性を逃しているというのが現状です。

毎年多くの皆さんからサポーターとしてご寄付をいただいていることに、深く感謝しております。民間の劇場が活動を継続し、地域の中で少しずつ居場所とか役割を見出しているのは、まぎれもなく皆さんのご助力のおかげです。

今年もぜひご寄付をお願い申し上げます。皆さんのご寄付は、我々の活動の根幹を支える自己資金となり、先に書いた通り助成金交付の基礎となっています。ここ数年来毎年1000口の獲得を目指しております。23年度には917口まで達したのですが、24年度のご寄付が272名様より619口、25年度のご寄付が264名様より640口と、ちょっと伸び悩んでおります。税制優遇の得られるメセナ協議会経由のご寄付も可能です。税額控除の得られる認定NPOのための手続きも、急ぎ進めております。寄付の方法について質問等あれば、お気軽にお問い合わせください。

小さい東京を目指すのでない、世界に誇れる創造的な地域をつくるために、鳥の劇場は演劇・劇場の力を軸にして、メンバー全員一丸となって活動しています。「地方」で「劇場」を「民間」が、といふ言葉は三重の困難を、みなさんのご努力で8年間とかなり乗り越えてきました。鳥取における演劇の拠点、日本における演劇の拠点を、我々は目指してきました。3年間で、当初は思ひもしなかった成果や出会いに恵まれました。最近の活動の中で、東アジアにおける演劇の拠点といいイメージも少しずつ見えてきました。

例えは2000万を自己資金で用意し、2000万借りて、合計4000万を使い、その後で助成2000万をもうういうことになります。

資金的な面で運営をスムーズ、確実にするカギは自己資金です。自己資金には二重の意味があります。自由に使えるお金で

鳥の劇場芸術監督 中島諒人

### 鳥の劇場2014年度 サポーター募集

【申込み】

寄付には以下の方法がございます。入金確認後、会員証をご送付申し上げます。振替手数料はご負担ください。

①郵便局窓口でご入金

郵便局指定の用紙に、お名前、ご住所、お電話番号、お持ちでしたらメールアドレスもご記入ください。

【郵便振替口座 01300-1-58939

名義:特定非営利活動法人鳥の劇場】

②直接現金でご入金

鳥の劇場にて受けたまわります。

③銀行振込、インターネットバンキングでご入金

下記の銀行口座へお振込みください。

お名前、電話番号を必ずご入力ください。

【ゆうちょ銀行 139(イチサンキュウ)支店 当座預金 口座番号:0058939】

【みずほ銀行 鳥取支店 普通預金 1718266 特定非営利活動法人鳥の劇場】

【鳥取銀行 本店営業部 普通預金 0269652 特定非営利活動法人鳥の劇場】

【山陰合同銀行 鳥取営業部 普通預金 3894187 特定非営利活動法人鳥の劇場】

【鳥取信用金庫 本店営業部 普通預金 0322825 特定非営利活動法人鳥の劇場】

④企業メセナ協議会の助成認定制度を利用してご入金

企業メセナ協議会の助成認定制度を利用して寄付(税制優遇があります)については、別途資料をお送りしますので、鳥の劇場までお知らせください。

【会 費】一口:5,000円 複数口も歓迎です。

【特 典】実績報告書の送付、活動報告会(翌年度初めに予定)への参加

【期 間】2014年4月1日から2015年3月31日まで

※会費は期間内のいつでもお受けいたします。

お問い合わせ:鳥の劇場(担当:中川・高橋)

TEL-FAX (0857)84-3268 E-mail:info@birdtheatre.org

### 上演をもっと多くの方に楽しんでいただけたために

#### 劇場へのアクセス

鳥取県鳥取市鹿野町鹿野1812-1 電話:0857-84-3268

■JRを使って

劇場の最寄り駅はJR浜村駅です。

※公演日は浜村駅と劇場の間を、車で送迎いたします(無料、要予約)。

□浜村駅まで JR浜村駅から、山陰本線、米子方面行きで30分

・倉吉駅から、山陰本線、鳥取方面行きで25分

・米子駅から、山陰本線、鳥取方面行きで1時間40分

□浜村駅から、車で15分

■車を使って

公演日は会場近くに案内看板を設置します。

・鳥取自動車道、鳥取西ICから約30分

・鳥取空港から約20分

・鳥取市中心部から約30分

・倉吉市中心部から約45分

・米子市中心部から約1時間30分

※ご宿泊について

□山翠苑 0857-84-2211 www.sanshien.jp

□お宿夢彦 0857-84-2411 www.yumeiko.co.jp

□旅風庵 0857-82-0531 www.yroyan.com

劇場への送迎については、宿へ直接ご相談ください。

### トトリ、私のおすすめ



「たみ」  
シェンハイハウスとゲストハウス、週末はカフェ。東郷池のすぐそば。旅人やお客様と住人、地元のおばちゃんたちのびのびして、のんびりして、こんちにはって声がかかるて、元気になれる場所です。  
安田茉耶(俳優・鳥取県出身)

### 鳥の劇場

2006年1月、演出家・中島諒人を中心として、鳥取県鳥取市鹿野町の廃校になった幼稚園・小学校を劇場施設へ手作りリノベーション。収容200人の「劇場」と80人の「スタジオ」をもつ。劇団の運営する劇場として、「創り」「拓く」「つなぐ」や「試みる」「考る」の5本柱で年間プログラムを構成。現代劇の創作・上演と併行して、ワークショップ、優れた作品の招聘、レクチャーなどを実施する。

主な作品は、「老婦人の訪問」(デュレイン)、「からめ」(チーホー)、「剣を鍛える話」(魯迅)、「誤解」(カミュー)、「物語」(上巣由紀夫)、「料理界路線」(ヒンターラ)など。

08年から地域や行政との協働による演劇祭「鳥の演劇祭」を実施。国際交流も進めており、韓国、タイ、台湾、ルーマニア、イギリス、イタリア、ペルギー、アメリカなどのアーティストが活動。2010年は中日韓3つの演劇祭「BeSeTo演劇祭」を開催。BeSeTo演劇祭実行委員会理事・特定非営利活動法人アートNPOリンク理事・平成21年度芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞劇団メンバー。

齊藤頼陽・中川玲奈・齋藤謙・赤羽三郎・村上里美・葛谷由衣・武中淳彦・高橋等・山本朋幸・中垣直久・中本綾美・石井俊祐・生田正・安田茉耶・岩崎菜緒・中島佳子

劇場の見学は、休日・公演日以外はいつでも可能ですが、休日が不定期ですので、お越しになる前に電話でご確認ください。また、稽古見学希望の方は、事前にご相談ください。電話:0857-84-3268

特定非営利活動法人鳥の劇場 ウェブサイト www.birdtheatre.org 電子メール info@birdtheatre.org

劇場:〒689-0405 鳥取県鳥取市鹿野町1812-1 電話・ファックス 0857-84-3268 / 事務所:〒680-0833 鳥取県鳥取市末広温泉町122-3F 電話・ファックス 0857-30-6303

2014年5月発行

-04-

2014年5月発行

## 鳥の劇場通信

鳥の劇場2014年度活動テーマ 劇場、未来に向かう共感の場としての。時間を越えて、国を越えて、障がいを越えて、年齢を越えて。

共感。人と人が喜びや怒りや悲しみや苦しみを共有する。他者の中の目に見えない思いを分かち合うことが、現在ほど困難になったことはなかったのではないか。かつては戦争や貧困を前提とした気持ちのつながりがあった。時代を経た社会の大きな変化の中で、一人ひとりの人が、他人と思いを共有することできている。

鳥の劇場では、優れた名作戯曲を上演する。それは、過去の人や違う場所で暮らす人の思いを、生きたものとして目前に引き出す。鳥の劇場には、多くの外国の舞台芸術家が滞在する。

単なる交流ではなく、国際的な共同作業を行う。鳥の劇場では、教育のための学校現場との連携も進める。

今年も我々は、地域の中にある国際的に開かれた創作・発信、交流の場として、日本の舞台芸術の発展のために、独自の貢献を模索していく。

**鳥の劇場**  
BIRD Theatre Company TOTTORI  
M

**vol. 10**

## 特集 開かれた創作の場を目指して

鳥の劇場は演劇だけでなく  
他の分野のアーティスト、  
国内外のみならず海外の演劇人とも  
交流も行き、作品づくり、  
場づくりを進めました。  
鳥の劇場を「開かれた創作の場」と  
するための今までの試みの  
一部をご紹介します。

(例1) BeSeTo演劇祭での国際共同制作

中国・韓国・日本の3ヶ国が毎年持ち回りで開催している「BeSeTo演劇祭」の演目として、中国・韓国の俳優を日本に招き、いっしょに作品をつくりました。

美しい舞台美術の中で、過去の戦争の現実と萩原朔太郎の夢想が交錯する舞台はとても新鮮で印象的でした。

2010年7月『白雪姫～グリム童話「白雪姫」より』鳥取・東京公演

2013年『セールスマンの死』鳥取公演(9月)・東京公演(11月)→詳細を中間に掲載。

(例2) 現代美術作家やなぎみわさんと共同製作

やなぎみわさんが脚本と演出を手がけての作品製作。やなぎみわの美術家としての視点や専門性からのアプローチはとても興味深いものでした。

美しい舞台美術の中で、過去の戦争の現実と萩原朔太郎の夢想が交錯する舞台はとても新鮮で印象的でした。

2012年9月『PANORAMA～パノラマ～』鳥の演劇祭5で上演

■これまで実施した交流プログラムの内容

2011年7月 剧団ティダ主催「Tutbat演劇祭」に参加(ワークショップ)、『白雪姫』上演

2012年1月 『およそ七〇年前、鳥取でも戦争があった。戦争を知らないわたしは、その記憶をわたしの血肉にできるだろうか。』にティダの俳優1人が客演

2012年12月 鳥取に招き、合同でのワークショップと小作品『あいこたつき(グリム童話から)』を製作し、成果発表会を行

2013年7月 俳優が劇団ティダ主催「Tutbat演劇祭」のワークショップに参加

(例4) 鳥の劇場で作品をつくりたい劇団を募集

広い場所や時間、機材を自由に使って芝居をくるのは演劇人の夢です。この企画は、じっくり作品をつくる環境を提供し、その成果を鳥取の観客と共有しようという目的で実施されました。鳥の劇場を、全国の演劇人のための創作の場にするための試みです。

2010年2月 「鳥取の鳥の劇場で鳥取の観客に作品をみせたい劇団による上演」

上演を希望する劇団を全国から公募。北海道から近畿の劇団まで予想を超える23の応募があり、上演団体を当初予定の2団体から4団体に増やしました。

■上演団体:東京アレスロック(埼玉)／妄人文明(東京)／shelf(東京)／元祖演劇乃素いき班(神奈川)

